

本年度前期授業の実施方針 について



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

東京都立大学 副学長(教育担当) 山下 英明

オンラインによる授業の実施(1)

○5/11の授業開始以降も対面形式の授業実施が困難な可能性大

○本学としては、学生・教職員の生命、健康を守り、可能な限り安全で利用しやすい教育環境を整えることが最優先

<全学方針>

◇5月11日以降、対面形式の授業を実施可能になるまでの期間は、原則としてすべての授業をオンラインで配信し、学生は自宅等においてリアルタイムで授業に参加する授業形式を採用

◇実験、実習等については、別途実施時期の変更または中止を検討

(2020. 4. 14 教育研究審議会にて決定)

オンラインによる授業の実施(2)

○本学におけるオンライン配信基本ツール

- ①教材配付、課題提出、学生とのコミュニケーション、小テスト等
→「kibaco」（本学のe-ラーニングシステム）
- ②同時双方向型のテレビ会議システム
→「Zoom」※当面、無料版を利用。4月末日途に大学で契約予定
- ・上記2つ以外のツールの使用を妨げるものではない。

このガイダンスでは、kibaco、Zoomの利用方法、オンライン授業実施にあたっての留意点について解説

オンラインによる授業の実施(3)

<実施方針>

- (1) 原則として、授業時間にテレビ会議システム「[Zoom](#)」を利用した「同時」かつ「双方向」で行うオンライン授業を実施する。学生は自宅等においてリアルタイムで授業に参加。
※必ずしも動画を利用する必要はない（音声のみも可）。
※学習効果を高めるため、授業の一部を「同時」かつ「双方向」ではない形態のオンデマンド方式で行うことも可。
- (2) 資料配布、課題提出など、授業全体の管理には本学の学習管理システム「[kibaco](#)」を用いる。
- (3) 学年暦の変更、オンライン授業実施にともない、授業開始日前にシラバスの更新と、授業ガイダンスを含む初回授業の内容等の「[kibaco](#)」へのアップロードを行う。(4/9付通知にて依頼)

対面授業と同等の教育効果を確保するために(1)

○対面授業に相当する教育効果を担保するために、遠隔授業に必要とされる要素の例（文科省通達等）

- インターネット等による設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導と学生や教員の意見交換の機会の確保。
- 教材による自宅学修においては、事前のガイダンス等により、授業の目的やねらい、教材を読むにあたっての留意点や、必要な視点・観点などを示す。
- 単に教材等の送付により授業が完結するものではなく、毎回の授業の実施に併せて質疑応答等による指導が必要。

対面授業と同等の教育効果を確保するために(2)

○学生の学習意欲の維持

- 同時双方向型の授業では、学生が集中できる時間が対面授業よりも短い。教員が終始話し続ける必要はなく、課題を解く時間や休憩時間を設けるなど、集中力を持続する工夫が必要。
- スマートフォン等、小さな画面を利用する学生が想定されるため、画面共有する資料や黒板の文字は大きめにする。
- 通信環境により音声聞き取りにくい場合も想定されるため、説明に抑揚を付け、ゆっくり話す。
- 学生はオンライン授業に慣れていないため、小テストやレポート等の提出期限にゆとりを持たせる。